

(本論文の要旨は第一回、第二回日本麻酔学会に報告した。)

参考文献

- ①藤井: 生化学実験法(定量篇), 昭15. ②小島, 吉川: 血清總窒素, 非蛋白窒素の定量について Kjeldahl法使用上の注意, 日新医学, 38: 371~373, 昭26.
 ③金井: 吉川, 斎藤氏 A/G 比並に Globulin 各分劃の測定法, 臨牀検査法提要, VII 20~21, 昭28. ④平井: Tiselius の装置による電気泳動法(I)(II), 日新医学, 35: 95~101, 146~153, 昭23. ⑤Koster H. and Kish B.: Procaine Esterase Activity in Human Serum, *Exper. Med. and Surg.*, 1: 71~83, 1943. ⑥手島: 塩酸プロカインの分解能について, 日外会誌, 53: 836, 昭28. (会). ⑦西山他: 人血漿に依る塩酸 Procaine 分解能に就て, 阪市医大誌, 3: 247~254, 昭29.
 ⑧谷野: 生体内プロカインの定量及びプロカインエステラーゼについて, 麻酔, 4: 1, 22~24, 昭30. (会). ⑨広田(訳): 生物々理化学の領域に於ける蛋白, 149, 1953. ⑩平井, 近藤: 血清療法法の進歩, 83~39, 昭29, ⑪手塚: 血清高田反応に関する研究, 日新医学, 40: 192~, 昭28. ⑫上田, 武内: 低蛋白血症の臨床, 134~135, 昭25.

Studies on Procaine Esterase Part 6: Clinical Studies on Procaine Esterase

Shigeo Momose

Department of Surgery, Faculty of Medicine,
Shinshu University

(Director: Prof. N. Hoshiko)
(Assistant Prof. K. Iwatsuki)

The procaine esterase activity of human serum was studied in certain surgical patients. As previously reported, seventy micrograms of procaine hydrochloride was completely hydrolyzed within 30 minutes at 37°C by 0.5 cc of fresh normal serum, while its hydrolysis was delayed by 30 minutes or more in some patients, whose serum protein, especially serum albumin and A/G ratio were found decreased.

Procaine esterase activity of serum was also closely related to liver functions, particularly to TADA reaction and Cadmium reaction of serum, but not significantly related to the value of B. S. P. test or Meulengracht index.

These results might lead us to confirm that special cautions should be taken for those patients with impaired liver function as well as hypoproteinemia, hypalbuminemia and for patients in poor risk, when they are administered a larger amount of procaine.

The blood of newborn showed a slightly decreased activity of procaine esterase as compared with that of healthy infants or of adults notwithstanding its almost normal protein fraction.

長野県和田村々民の生体計測

昭和30年12月8日 受付

信州大学医学部第二解剖学教室 (主任 鈴木教授)

鈴木 誠 栗 岩 純 西 沢 康 司

I. 緒 言

本調査は長野県人の人類学的研究の一部をなすものであつて、同県中部地方群の資料として、その計測値と概要を発表する。

我々は昭和28年5月17日~18日に亘り長野県東筑摩郡和田村に赴き、同村々民を計測し得た。此処にはその成績を、既に当教室に於て調査せる上伊那郡藤沢村^①及び西筑摩郡新開村^②のものと比較して報告する。

尙、此の調査は日本人の生体計測に関する資料の集積を目的として、全国的に行はれた文部省科学研究の生体測定班^①に協力して実施したものである。

調査に当つては、和田村役場及び同診療所職員並びに村民各位の絶大なる御協力をいたしたことを感謝すると共に、当時の診療所長木戸幸雄氏の格別の御尽力に深謝する。

II. 調査材料並びに研究方法

本村は松本市の西方で、松本平の中央よりやや西に位置し、南西より東北に向ゆるやかな傾斜をなしているが、既ね平坦である。(最高海拔650m, 最低620m) 村内を県道山形線が東西に、梓線が南北に通じている。河川は梓川の支流が中川、宮川、芝沢川となつて、水田を灌漑している。水田は村の中央より東に、畑は西にあつて、総面積の大部分を占め、村民は農作

によつて生計を立てている。

人口は4 066人で、その中189人(男子100人、女子89人)の満20才以上で、両親を本村及び郡内の隣接村に持つ者を選んで調査した。(第1表参照)

第1表 年令分布

年 令	男 子	女 子
20 ~ 29 才	34 (34.0%)	29 (32.6%)
30 ~ 39 才	27 (27.0%)	34 (38.2%)
40 ~ 49 才	24 (24.0%)	17 (19.1%)
50 ~ 才 59	12 (12.0%)	8 (9.0%)
60 才 以上	3 (3.0%)	1 (1.1%)
計	100 (100%)	89 (100%)

計測方法は、大略 Martin^②の方法によつたが、一部は生体測定班で定めた方法に準じた。

即ち、前腸骨棘高は前腸骨棘の中央最も前方に突出する点を選び、下肢長は $\frac{1}{2}$ (恥骨結合上縁高+前腸骨棘高)により算出した。又左右眼窠上縁に引いた切線が、正中線と交はる点を Nasion に代用し、頭耳高は間接法を採用した。但し下顎角巾は下顎角の外側部を計測した。

Ⅲ. 計測成績

1. 体 部 (第2表参照)

同表によれば、絶対値に於ては、骨盤巾のみ男女の差がなく、その他では何れも男子が女子より大きい。示数では比上肢長と比肩峰巾で男子が女子に勝れ、比

第2表 和田村々民の体部計測値 (単位は㎝)

	男 子				女 子			
	n	M ± m	σ	V	n	M ± m	σ	V
身 長	99	161.48±0.52	5.14	3.19	88	150.86±0.46	4.35	2.88
胸 骨 上 縁 高	99	130.65±0.45	4.48	3.43	88	122.31±0.41	3.88	3.18
右 肩 峰 高	99	130.75±0.47	4.70	3.59	88	122.54±0.41	3.87	3.16
恥骨結合上縁高	96	80.14±0.35	3.44	4.29	79	75.21±0.36	3.18	4.23
右前腸骨棘高	97	87.79±0.38	3.77	4.30	76	82.54±3.37	3.26	3.95
右中指指尖高	99	61.21±0.33	3.31	5.41	88	57.35±0.29	2.70	4.71
軀 幹 長	96	50.60±0.24	2.35	4.63	79	46.77±0.29	2.62	5.60
上 肢 長	99	69.58±0.27	2.66	3.82	88	64.27±0.24	2.28	3.55
下 肢 長	96	84.05±0.36	3.56	4.23	76	78.86±0.37	3.20	4.06
肩 峰 幅	100	37.38±0.17	1.69	4.52	88	34.19±0.16	1.49	4.35
骨 盤 幅	100	27.92±0.12	1.22	4.38	83	27.82±0.14	1.29	4.62
比 軀 幹 長	96	31.37±0.11	1.08	3.45	78	31.04±0.16	1.40	4.51
比 上 肢 長	99	43.14±0.13	1.30	3.01	88	42.59±0.12	1.14	2.68
比 下 肢 長	96	52.16±0.13	1.24	2.38	76	52.25±0.15	1.31	2.50
比 肩 峰 幅	99	23.20±0.10	1.01	4.34	88	22.66±0.09	0.82	3.62
比 骨 盤 幅	99	17.31±0.07	0.73	4.21	83	18.45±0.10	0.94	5.11

第3表 男 子 身 長 分 類

分 類	階 級						計	平均 値
	極 小	小	稍 小	中 等	稍 大	大		
地方	×~149.9	150.0~ 159.9	160.0~ 163.9	164.0~ 166.9	167.0~ 169.0	170.0~×		
和田村	2 (2.0)	37 (37.3)	30 (30.3)	15 (15.2)	8 (6.1)	7 (7.1)	99 (100)	161.48±0.52
藤沢村	6 (4.4)	66 (48.2)	40 (29.2)	15 (10.9)	8 (5.8)	2 (1.5)	137 (100)	159.37±0.42
新開村	4 (4.3)	50 (53.2)	28 (29.8)	7 (7.4)	3 (3.2)	2 (2.1)	94 (100)	158.70±0.57

女 子

分 類	階 級						計	平均 値
	極 小	小	稍 小	中 等	稍 大	大		
地方	×~139.9	140.0~ 148.9	149.0~ 152.9	153.0~ 155.9	156.0~ 158.9	159.0~×		
和田村	0	31 (35.2)	31 (35.2)	16 (18.2)	7 (8.0)	3 (3.4)	88 (100)	150.86±0.46
藤沢村	2 (1.5)	72 (54.1)	38 (28.6)	13 (9.8)	5 (3.8)	3 (2.3)	133 (100)	148.81±0.40
新開村	4 (4.9)	31 (38.2)	26 (32.1)	13 (16.1)	5 (6.2)	2 (2.5)	81 (100)	149.91±0.57

〔註〕 数字は実数、() 内は%を示す。以下すべて同じ

第4表 和田村々民の頭顔部計測値 (単位は粒)

	男 子				女 子			
	n	M + m	σ	V	n	M + m	σ	V
頭最大長	100	187.70±0.60	6.04	3.22	89	179.88±0.58	5.49	3.05
頭最大幅	100	154.69±0.47	4.70	3.04	89	146.76±0.55	5.15	3.51
頭耳高	97	125.53±0.57	5.64	4.49	87	121.93±0.76	7.08	5.80
頬骨弓幅	100	144.41±0.48	4.76	3.29	89	135.69±0.51	4.80	3.54
下顎角幅	100	105.21±0.56	5.56	5.28	89	98.24±0.49	4.64	4.73
形態顔面高	96	130.00±0.61	5.94	4.57	84	123.62±0.62	5.71	4.62
頭長幅示数	100	82.46±0.35	3.55	4.31	89	81.63±0.36	3.40	4.16
頭長高示数	97	66.97±0.36	3.52	5.26	87	67.69±0.49	4.53	6.69
頭幅高示数	97	81.18±0.37	3.65	4.49	87	83.15±0.51	4.73	5.68
下顎示数	100	72.80±0.32	3.24	4.46	89	72.56±0.35	3.33	4.59
形態顔面示数	96	90.13±0.46	4.55	5.05	84	91.26±0.58	5.35	5.87

第5表 頭長幅示数分類

男 子		長 頭	中 頭	短 頭	過短頭	計	示数平均値
分 類	階 級	× ~ 75.9	76.0 ~ 80.9	81.0 ~ 85.4	85.5 ~ ×		
地方							
和田村	2 (2.0)	30 (30.0)	50 (50.0)	18 (18.0)	100 (100)	82.63±0.35	
藤沢村	6 (4.4)	55 (40.1)	61 (44.5)	15 (10.9)	137 (99.9)	81.50±0.32	
新開村	1 (1.1)	22 (23.4)	46 (48.9)	25 (26.6)	94 (100)	83.37±0.39	
女 子							
和田村	5 (5.6)	37 (41.6)	37 (41.6)	10 (11.2)	89 (100)	81.46±0.036	
藤沢村	10 (7.5)	45 (33.8)	52 (39.1)	26 (19.5)	133 (99.9)	81.50±0.35	
新開村	0	24 (29.3)	34 (41.5)	24 (29.3)	82 (100.1)	83.50±0.48	

骨盤巾では逆に女子が男子にまさっている。いま、身長について Martin の分類に従って、他の二村のそれと比較して表示したのが第3表である。

本村々民の平均値は「稍小」の部に属し、他の二村にくらべて大きく、女子に於て新開村のそれとの間に差を見ないが、他はすべて有意差がある。

2. 頭 顔 部 (第4表参照)

頭顔部の計測値は、全て男子に於て女子より大である。その示数では、頭巾高示数のみが女子が男子よりすぐれ、その他の項では差を見ない。

次に頭顔部の示数分類を他の二村と比較して示したのが第5~8表である。

頭長巾示数(第5表参照)は男女共、短頭型と中頭型が絶対多数を占め、その平均値は何れも中頭型に近い短頭型に属している。他村のそれとの比較では、藤沢村々民に類似しその間に差を見ないが、新開村々民はやゝ大なる値を示し、その平均値は短頭型の上限に近く位し、本村々民のそれとの間に女子では差が明らかである。

頭長高示数(第6表参照)は男女とも、高頭型に属するものが大部分で、低頭型に属するものはまれである。藤沢、新開両村の成績と比較するに、本村々民の示す平均値はやゝ大きく、女子に於て新開村々民のそれとの間に差がないのを除いて、すべて有意な差が認められる。

頭巾高示数(第7表参照)は男女とも、中頭型が最も多数を占め、その平均値は男子では中頭型の下限、女子では中頭型の上限に近く位する。他村々民との比較に於て、本村々民のそれは男女とも大であるが、藤沢村男子との間には差を認めない。

形態顔面示数(第8表参照)は男女何れも長顔と過長顔が大部分で、その平均値は長顔型の上位にある。両村との間には差を認めない。

IV. 総 括

長野県東筑摩郡和田村々民男子100名、女子89名の生体計測による成績を要約すると以下の如くである。

1. 計測絶対値に於ては骨盤巾を除いて、他の全てが女子より男子が大きい。示数では体部に於て比上肢

第6表 頭長高示数分類

男 子			女 子		
分 類	低 頭	正 頭	高 頭	計	示数平均値
階 級	×~57.6	57.7~62.5	62.6~×		
和 田 村	0	4 (8.3)	89 (91.7)	97 (100)	66.97±0.36
藤 沢 村	1 (0.7)	44 (32.1)	92 (67.2)	137 (100)	64.79±0.31
新 開 村	0	27 (28.7)	67 (71.3)	94 (100)	64.50±0.31
和 田 村	1 (1.2)	10 (11.5)	76 (87.3)	87 (100)	67.69±0.49
藤 沢 村	3 (2.3)	30 (22.5)	100 (75.2)	133 (100)	65.06±0.33
新 開 村	2 (2.5)	16 (19.7)	63 (77.8)	81 (100)	65.77±0.45

第7表 頭幅高示数分類

男 子			女 子		
分 類	低 頭	中 頭	高 頭	計	示数平均値
階 級	×~78.9	79.0~84.9	85.0~×		
和 田 村	26 (27.8)	61 (62.9)	10 (10.3)	97 (100)	81.18±0.37
藤 沢 村	59 (43.1)	63 (46.0)	15 (10.9)	137 (100)	79.67±0.35
新 開 村	60 (63.8)	29 (30.9)	5 (5.3)	94 (100)	77.72±0.36
和 田 村	15 (17.2)	43 (49.4)	29 (33.3)	87 (99.9)	83.15±0.51
藤 沢 村	62 (46.6)	60 (45.1)	11 (8.3)	133 (100)	79.23±0.37
新 開 村	42 (51.9)	30 (37.0)	9 (11.1)	81 (100)	78.50±0.62

第8表 形態顔面示数分類

男 子			女 子				
分 類	過短顔	短 顔	中等顔	長 顔	過長顔	計	示数平均値
階 級	×~78.9	79.0~83.9	84.0~87.9	88.0~92.9	93.0~+		
和 田 村	1 (1.0)	10 (10.4)	19 (19.8)	40 (41.7)	26 (27.1)	96 (100)	90.13±0.46
藤 沢 村	4 (2.9)	5 (3.6)	16 (11.7)	51 (37.2)	61 (44.5)	137 (99.9)	91.49±0.42
新 開 村	0	8 (9.0)	19 (21.3)	32 (36.0)	30 (33.7)	89 (100)	90.48±0.51
和 田 村	0	8 (9.5)	15 (17.9)	29 (34.5)	32 (38.1)	84 (100)	91.26±0.58
藤 沢 村	0	6 (4.5)	21 (15.8)	54 (40.6)	52 (39.1)	133 (100)	91.81±0.38
新 開 村	0	6 (8.6)	16 (22.8)	27 (38.6)	21 (30.0)	70 (100)	90.36±0.59

長、比肩峰巾で男子が女子に、比骨盤巾で女子が勝れている。頭顔部では、頭巾高示数に於てのみ女子が男子に勝れ他は差を見ない。

- 身長は男女とも「稍小」に属する。
- 頭長巾示数は男女とも短頭型である。
- 頭長高示数は男女とも高頭型である。
- 頭巾高示数は男女とも中頭型である。
- 形態顔面示数は男女とも長顔型に属する。

引用文献

- ①文部省科学研究生体測定班報告書，日本人の生体測定。昭25 (1950)，昭26 (1951)，昭27 (1952)。
- ②Martin, R, Lehrbuch der Anthropologie, 2 Aufl., Jena, 1928。
- ③鈴木誠，栗岩純，西沢康司：長野県藤沢村々民の生体計測；信州医学雑誌，3, 3: 13, 昭29。
- ④鈴木誠，西沢康司，西嶋典夫：長野県新開村々民の生体計測；信州医学雑誌，発表予定。

Somatometry of the Inhabitants in Wada-Mura, Nagano Prefecture

Makoto Suzuki, Makoto Kuriw
and

Yasuji Nishizawa

Department of Anatomy, Faculty of Medicine,
Shinshu University
(Director.: Prof. M. Suzuki)

The authors carried out anthropometric investigations about 189 adult inhabitants (100 males and 89 females) in Wada-Mura, Nagano Prefecture, in May 1953.

The measurement values, indices and classification of indices of the population are shown in the tables.

The results are summarized as follows:

1) All measurement values excepting the breadth of hips in male are larger than in female. The indices of the relative length of upperlimbs and the relative breadth of shoulders in male are larger than in female and the index of relative breadth of hips and breadth-height index of head in female are larger than in male, but in other indices any significant difference between male and female can not be recognized.

2) In stature, they are a little short in both sexes (161.48 cm in male and 150.86 cm in female).

3) They are in both sexes brachycephalic (male 82.46 and female 81.63), hypsicephalic (male 66.97 and female 67.69) and metriocephalic (male 81.18 and female 83.15) in head and leptoprosopic (male 90.13 and female 91.26) in face.

癲癇特にその興奮に対するクロルプロマジンの使用経験

昭和30年12月13日 受付

信州大学医学部神経科 (主任 西丸四方教授)

関 守 関 俊 子
二 木 哲 夫 中 田 明

精神々症及び精神病の患者の緊張状態、不安状態、亢奮等の精神運動亢進に対するクロルプロマジン(以下 Cp と記載)の少くとも対症的な効果については、現在これを疑う人は少いが、癲癇患者のそれについては我々が知る限りではまとまった報告としては、Vincent I. Bonafeda の最近に於けるものをあげることが出来るのみである。我々は彼の報告とは全く無関係に約半年前より若干名の癲癇患者にして而も Luminal や Aleviatin 等の従来の薬物では、その精神運動発作(錯乱、不機嫌状態等)を抑えることが出来なかつたような例に Cp を用いて相当な効果を認め、特にこれにより入院中の患者の取扱いを非常に容易ならしめる事が出来るとの自信を持つに至つたので報告する。

尙癲癇性の痙攣発作に対しては、今回はそれが主なる目的でないから多くはふれないが、従来の文献に照らし若干の検討を加えた。

症 例

我々の経験日数はまだ浅く、又実施例も少ないのであるが、こゝには比較的長期に亘つて観察し得た入院中の一部の例についてのみのべる。この外に目下投薬中であつて、予期したごとき効果をおさめつゝある例もあるが、使用日数も浅いのですべて除外した。

症例 1. 32才女。

過去5年間に亘り Aleviatin, Luminal などの連続投与にも拘らず、常に易怒不機嫌で亢奮性強し時々他患と喧嘩をして室内に波瀾を起し看護婦達も其の処置に手を焼いていた。始め従来使用していた Aleviatin, Luminal を中止し Cp に代えたところ、従来認められなかつた痙攣発作が頻発し始めたが、亢奮易怒は和いたので両者の合併に代えたところ痙攣もなく精神症状もおさまり、そんな状態が20日間も続き間もなく再び自然に精神運動不安を認めたので Cp を増量したら再び安静に戻つた。前後68日間投薬したが、最近になり一時 Cp を中止してみたところ矢張り投与前と同様な症状が現れ始めたので現在は又服薬を実施中で精神症状もおちついている。

症例 2. 34才女。

15年来の癲癇患者で長期間に亘り Barbiturate 系の癲癇剤を継続していたものである。易怒不機嫌で独語あり、ときどき亢奮して他人と争い徘徊や蒐集癖があり、それを制止すれば怒号し反抗する。痴呆状態も強く判断力、指南力は著明に低下している。症例 1 と同様従来から用いていた薬剤を Cp に代えたところ大発作が頻発するので両者の併用を開始したが、この場合大発作のみは消失したが亢奮性や徘徊独語等は殆んど